

田辺東小学校3年生

特産えびいもに胸熱く

農福連携 さんさん 山城と



掘り出したばかりの株に注目を寄せる児童たち

田辺東小学校(尾谷亭校長)の3年生36人は9日、学校近くにあるえびいも畑を訪れ、収穫と出荷準備の体験に胸を弾ませた。東区内の木津川堤に程近い畑を管理するのは、京田辺市興戸小モ詰の障害者就労支援事業所で農福連携セ

ンターの「さんさん山城」(新免修施設長、藤永実管理)者。高級食材として注目が増す地元特産えびいもの収穫は今シーズン

も佳境を迎えている。4月に株を植え、猛暑を経て、1つの種いもから6つほど成るといいう子いもは、今冬も京の家庭に欠かせない



堀内仁夢羽さんもきれいに土泥を落としていった

高級食材の一つとなる。さんさんは、開設2年目の2012年に栽培を始め、ノウハウを積み、JAを通じた出荷も盛ん。京都市内の名立たる料亭などの引き合いは数多く、茎部分の「瑞饋(ずいき)」は棚倉孫神社の神輿用に奉納を続ける。

この日朝、畝まで足を運んだ児童たちをさんさんの利用者・職員の6人が温かく歓迎。植原優さん、新免施設長に説明してもらい、両手をかざす「拍手」の手話で応えた。「ポキンと折らないで、ねじり取って」とのアドバイスに沿い、土から掘り出された

子いもを一つずつもぎ取った。「傷みや変色がないよう土を落とすのに水を使わない」と、タオルで丁寧に土泥を拭いていった。新免施設長は「ねっ」とりとした味わい。クリーミーでおいしい」と食感に触れ、児童たちはきれいに縞模様が出現するえびいもの姿にしばし見惚れた。市立校給食メニューにも登場するえびいも。

「母がえびいもハン」
「母がえびいもハン」
「母がえびいもハン」



一つひとつ丁寧に縞模様が浮き上がって来るね

南宇治消防器店
☎281195